

てつなぎ

No.76

島根県保育協議会・保育士部会

ごあいさつ




保育士部会 部会長
若槻 紀子
(雲南保育研究会八川幼稚園)

保育士部会長として早くも1年が経ちました。前年度、皆様からご支援、ご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

私は、これまでの研修受講経験から、計画、運営する立場に携わる経験をさせていただく中で、役割の重要性を感じました。大勢の人前で司会等をする緊張感はきっと子どもの頃に人前で遊戯や発表などを経験したあのころとおなじドキドキ感。保育の色々な場面で思う事、「いま目の前にいるこの子たちは何を感じ、どんな気持ちでいるのだろうか?」「保育者の思いや願いは?」と、自分の心を動かしています。

保育の中で、子どもの目に見える行動は具体的に捉え

られますが、心、内面の育ちをどのように捉え、支え、伸ばしていかねばならないのか…私の大きな課題です。子どもの見方や保育者のあり方が、子どもの育ちに大きく影響することを踏まえ、子どもが安心、安定した心で自ら心を動かし主体的に活動できるよう多様な見方で支え、乳児期からの子どもの可能性を引き出しながら一人ひとりを大切にする保育を私たちは実現していかねばならないと思います。

いま、保育の担い手不足等の困難さがある時だからこそ、組織で働く職員間同士、仲間を大切に想い、やわらかい心を寄せ合って、一人ひとりが保育の質を高める意識や目標をもち、自分自身の動き方を考え、実践する保育が求められていると思います。

保育に携わる全ての専門組織として子どもが豊かに育つ保育の実現をめざすよう努め、8名の部員の先生方と共に今年度も充実した活動ができるように努力して参りますので、研修等への参加・てつなぎ発行への協力等、よろしく願いいたします。



総務研修委員

左から
出雲/石倉 幸 恵 大田/山根 三 枝
江津/福富 由希子 邑智/山崎 恵美子

総務研修委員会では、「保育者のつどい」「スキルアップ研修会」「保育所職員研修会」など島根県保育協議会が主催する各種研修会の運営の協力を行なっています。

島根県は縦に長く、東西の移動が大変ではありますが、会員の皆さんが「参加してよかった」「実践に役立った」と思ってもらえるような研修ができればとみんなで力を合わせて活動しています。2年目を迎え、さらに充実した研修にできるよう頑張っていきたいと思っています。

総務研修委員会 委員長 石倉 幸恵 (出雲)



調査編集委員

左から
益田/宇田川 亜由美 松江/鳥谷 純子
かのあし/水津 智美 浜田/野田 明美

調査編集委員会では、年2回の「てつなぎ」の発行を行なっています。

手に取っていただく先生方の顔を思い浮かべながらお互い刺激を受けたり、共感したり、ホッと和んだりできる内容になるように願いながら編集に取り組んでいます。会員の先生方にはご協力をいただき大変感謝しています。

始めは不安だった編集会議は回を重ねることに楽しみな時間になりました。2年目も充実した「てつなぎ」をお届けできるよう頑張りたいと思っています。

調査編集委員会 委員長 宇田川 亜由美 (益田)

保育者のつどいから

平成28年6月18日(土)
大田市民会館にて「保育者のつどい」を開催しました。

講演

「愛着関係と子どもの自律」

講師：元 立教女学院短期大学教授 今井 和子 氏

《講師紹介》



・元立教女学院短期大学教授 ・子どもことば研究会代表
23年間東京、川崎市で公立保育園の保育士として勤務され、「子どものことば」「自我の育ち」「質の高い乳児保育の実践と子育て支援」を柱とした実践研究を積み重ねてこられた。保育園退職後、大学非常勤講師、大学教授、保育園園長としてご活躍後 現在は全国各地での保育者研修会を精力的に行っておられる。

《主な著書》 「遊びこそ豊かな学び」「子どもことばの世界」
「主任保育士・副園長・リーダーに求められる役割と実践的スキル」他多数

今井和子先生にインタビュー 昨年に引き続き今年も講演の前にインタビューをさせていただきました。



☆今井先生の近況をおきかせください

各地での講演もおこなっておりますが、自身としては園内研修の大切さを感じ力を入れておこなっております。

☆当園(質問者A)では、「あげは物語」のDVD*1を園内研修で使わせて頂きました。

私自身劇が好きだったことから、子どもたちの劇あそびには、とても思い入れがあります。生活の中からのごっこ遊び、遊びの中で自分のあこがれの主人公になれるという経験は子どもにとって“夢をはぐくむ”大切な経験です。アイドルやヒーロー

的なものではなく、人間らしい生き方をしているひとに憧れて欲しいと思います。

また、劇あそびは子どもたちの団結が必要となります。思っていること、考えていることをお互い受け止めあう、理解しあうという社会性も育まれていくと思います。

☆「保育園落ちた…」のブログについて、先生はどうお感じになりましたか？

言葉づかいはよくないと思いましたが、訴えた人の辛さを感じました。私自身も子どもを保育園に預け、働き続けたからこそ今があります。それができないのは女性としての生き方に関わること、人生を否定されることに等しいと思います。

行政には、ただ待機児童解消の為だけでなく、子どもをどう大事にしていくのか、どこにお金をかければよいのか、次世代を担う子ども達の最善の利益を考えて、対策を講じてほしいと思います。

☆保育士不足の要因とその対策について先生のお考えをお聞かせください。

保育士の仕事は命を預かる仕事。給料面、勤務時間、人間関係と色々な難しさや大変さが多いと思います。また、気になる子ども、保護者対応にも追われ、よい保育士なのに病んでしまい退職してしまうというケースもめずらしくありません。

このようなことを未然に防ぐためにも「チーム保育の大切さ」を感じています。皆でフォローしあう、支えあう。皆が自分の問題として取りくむ。そのためにはリーダーが率先して動いてほしい、保育の面白さを伝えてほしいという思いで今回、「主任、副園長、リーダーに求められる役割と実践スキル」という本を書きました。

*1 「遊びこそ豊かな学び」付録



概要

「足場(乳児期の愛着)があればこそ人は自立して生きていける」しかし、今の社会における状況(不況や貧困、長時間労働、孤育て)により、親のゆとりが失われていることで共感性が乏しく放任(まかせっきり)傾向があります。保育園があるからこそ見過ごしがちな目に見えない行動を親に伝えることができる、親と共に子どもの見えない心の育ちを理解し支えることが大切であることを話して頂きました。

どんな子どもも決して否定的に捉えない みんな育つ力を持っている

乳幼児の心、自律を育む保育

- 泣く → 言葉にならない乳児の感情や訴え(葛藤)にきちんと向き合って泣くわけを理解しようとする
- 笑う → 泣きの理由を理解してもらい養護されてこそ心の底からの笑顔が生まれる
- なん語 → 人と音声で語り合える喜び
- 共同注視~指さし → ことばの前兆
- 三項関係 → 子どもの興味、関心事をおとなと共有する
- 人見知り → 身近にいる安心できる人とそれ以外の人の区別ができているかどうか?
- 自我の芽生え → 自分を意識し、自己主張し、自分にこだわる心の動き・他者の自我とぶつかりながら折り合いをつけていく力※自分の気持ちを理解してくれる大人の存在→立ち直りの力になる
- 葛藤 → 自己コントロールができずパニックになってしまい泣いたり怒ったり自分と向き合う・自律していくために大切なこと

3歳以上児~人は一人では生きられない、皆と一緒に喜びである存在

◆3歳児 ~友達や人への関心→内なる抑制力の源

- ・親離れ→おとなと折り合いがつけられる、自分と相手という対の関係がわかってくる
- ・何でもやりたい、知りたい、やる気の時代→ごっこ遊びが開花
- ・自分の世界から自分たちの世界へ
- ・友達を意識する行動(待つ、教える、真似るなど)が見られる→友達ができた喜びを意識づけていく

◆4歳児 ~友達と比較して自分を見る

- ・友達のことが分かるようになる(相手の気持ちや、行動の意図を知ろうとする)
- ・理解できれば嫌だけれどしようとする力、納得する力、我慢する力

◆5~6歳児 一真ん中の発見 感情が安定し自律が育つ

- ・中間世界ができてくる(左、真ん中、右) 思いを巡らし考えるようになる
- ・複数の判断を結びつけて結論を導く→人の多様性を理解できるようになる

まとめ

愛着があつてこそその育ちがあること
その育ちにに応じた適切なケアが重要であること

おわりに

「チーム保育」の大切さについてお話しされました。子ども達の為に良い保育をするには職員同士お互いのできないことをカバーしあい皆が育ちの援助者のプロになっていくことです。子どもも職員も保育園に行くのが楽しみと思えるように、受け入れてもらえる環境、肯定的な見方を一人一人が心がけていくことが大切だと感じました。

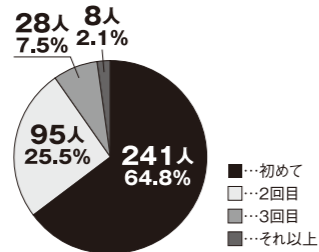


保育者のつどい アンケート結果から

①今日の「保育者のつどい」について

今井 和子 氏
講演について

☆今井和子先生のご講演を聴くのは?



☆今日の講演で一番印象に残ったこと



- 1 愛着関係（アタッチメント）形成の重要性
- 2 子どもの気持ちの受け止めと理解、関わり方について今の自分の対応でいいか考えさせられた
- 3 (主としてしんちゃんのDVDを見て) 保育者の仕事とはということ、これからはチーム保育が大事ということ

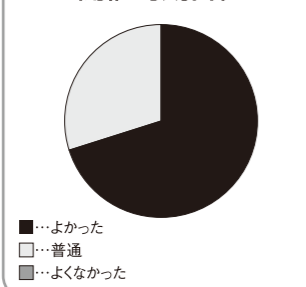
☆実践で活かしたいこと

- 1 目に見える行動ではなく、子どもの思い（心）や困難さなどを感じとり、受け止め、思いに寄り添っていくこと。
そのために「待つことを大事にする」「自我の芽生えを摘み取らない」「自己主張を否定的に捉えない」「ケンカの際は裁判官ではなく解説者になる」「子どもが相手の想いを受入れながら折り合いをつけていくプロセスを大事にしていく」などに気をつけていきたい。
- 2 笑うこと、おはしゃぎあそび
くすぐりあそび、わらべうたあそび、ふれあいあそびなどを保育の中に積極的にとり入れ、子どもと楽しみたい。
- 3 チーム保育
今後ますます難しくなっていく保育について、職員間で支えあい「チーム保育」で乗り切っていきたい。

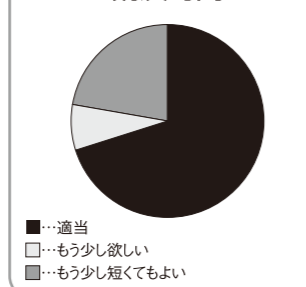


全体に関して

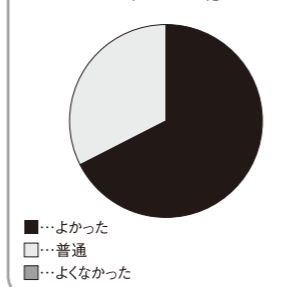
開催時期日程



講演時間



会場



②今後の「保育者のつどい」についての希望

講演の内容・
テーマ

- ・気になる子、(発達障がいを含む)障がい児保育について
 - ・自己肯定感について (今井和子氏)
 - ・3歳以上児の保育について (今井 和子氏)
 - ・今井和子先生の話なら何でも聞きたい
 - ▼ その他 ▼
 - ・保護者支援について
 - ・子育て支援について
 - ・チーム保育について
 - ・子どもとおもちゃ
 - ・子どもとことば
 - ・食育
 - ・叱る、怒る、注意することについて
 - ・欧米の保育について
 - ・スマホが及ぼす影響について
 - ・苦情対応について
 - ・すぐに保育に生かせる内容(手遊び、ダンス、リズムあそび、パネルシアター)
 - ・いじめやひきこもりに関わった人の話
- など、いろいろな意見がありました

講師の希望

- ・今井 和子 氏 (圧倒的に希望が多かったです)
 - ・尾木ママ
 - ・汐見 稔幸 氏
 - ▼ その他 ▼
 - 大日向 雅美氏、新沢 としひこ氏、二本松 はじめ氏、長瀬 美子氏、藤森 平司氏、佐藤 暁氏、弘道おにいさん、ケロボンズ、山田 真理子氏、長谷川 義史氏、平井 信義氏、保育士を辞めた先生の話
- などの意見がありました

③その他

- ・大切な内容はできれば資料をいただきたい
- ・会場は交通手段の良いところを希望する
- ・開始時間が中途半端だったので、もう少し早いか遅くにして欲しかった
- ・開催日が決まったら、できるだけ早く知らせほしい

保育所におけるエルダー制度の導入について

保育所待機児童の解消に向けて、保育士確保・定着のためのさまざまな取り組みが行われていますが、全国的に保育士は一般企業に比べて離職率が高い傾向にあると言われています。島根県においても、とりわけ入職から3年以内に離職する人が全体の4割を占めるという調査結果がでており、新人職員が早く仕事や人間関係に慣れることができるよう、職場内で新人職員をサポートする取り組みが必要となっています。

すでに職場の中では新人職員を対象として、保育スキルを高めるための指導的職員を配置しているところもあると思いますが、新人職員が職場に早くなじむためには、保育技術だけでなく精神的なサポートも大切です。

こうした中、島根県社会福祉協議会と島根県保育協議会では、新人職員の職場定着のための取り組みとして医療や介護分野で成果を出しているエルダー制度（先輩職員が新人職員に1対1で寄り添いながら精神的なサポートを行う支援制度）を保育分野にも取り入れたいと考え、県内保育所10カ所を対象とした「エルダー制度普及推進モデル事業」を実施しています。

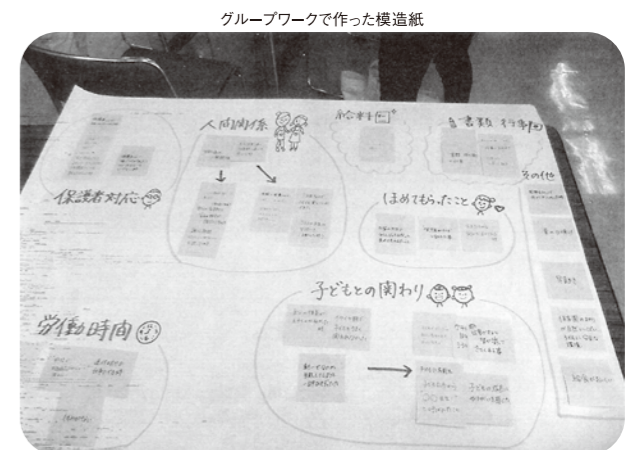
具体的には、4月に「エルダー育成研修」、9月に「フォローアップカフェ」、2月に「成果報告会」を実施するとともに、エルダー育成支援員（臨床心理士）を年2回保育所に派遣し、エルダー本人や所長（園長）と面談して助言等を行っています。

これらの取り組みを通じて期待されることは3つあります。1つめは新人職員が職場や仕事に慣れ、精神的にも安定して仕事を続けていけるようになること、2つめはエルダーとなる職員が、新人職員に寄り添いながら相談を受けることによって自身の成長につながることで、そして最後にこうした職員個々の成長が保育所組織全体の成長につながることであります。

本年度はモデル事業として実施していますが、来年度からは本年度のモデル事業における成果や課題を踏まえて全県展開していきたいと考えています。



グループワーク中の先生の様子





【夕日に向かって 叫ぶ!!】

子どものつがやき

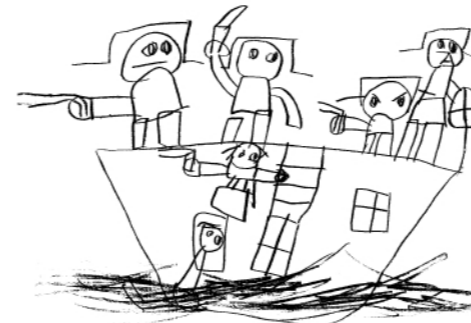
卒園式の朝、はかま姿で正装した担任をみつけてはすかし
そうに耳打ちしてくれたI君。
「せんせい なんで今日 七五三の服 着てきたん???’
胸がいっぱいだった朝に爆笑のプレゼントをもらいました。

連絡ノートから

3歳児
竹のござをリビングに敷きました。
母「スライディングするとやけどするよ」
(よくスライディングするので)
子「えっ?? この下にフライパンはいっとるん??」
・・・とござの下をはぐってのぞいていました。



【はるのはなたば はいどうぞ!】



【海ぞく 舟が出発だ!!】
5歳男児

子どものつがやき

2歳男児
粘土あそびで小さくちぎったものを並べていたI君。
「これな～に?」とたずねると
「お・か・ね」と教えてくれました。



【年少さんは田植えのお手伝い
苗をポーン】

連絡ノートから

保育園より
昨日収穫したきゅうりを、朝子どもたちの前で切り、給食の酢みそ
和えに混ぜて食べました。
「♪きゅうりのきゅうちゃん」と自作の歌をうたってくれたHちゃん。
私も続けて「カリッ コリッ」とうたってみましたよ。聞いてみて
あげて下さいね。

母より
「きゅうりの歌 歌ってー」と言ってみましたが「どんな歌?」と逆に
聞かれなぜかわたしが歌うハメになりました・・・



【バスに乗って遠足に行ったよ】
3歳女児



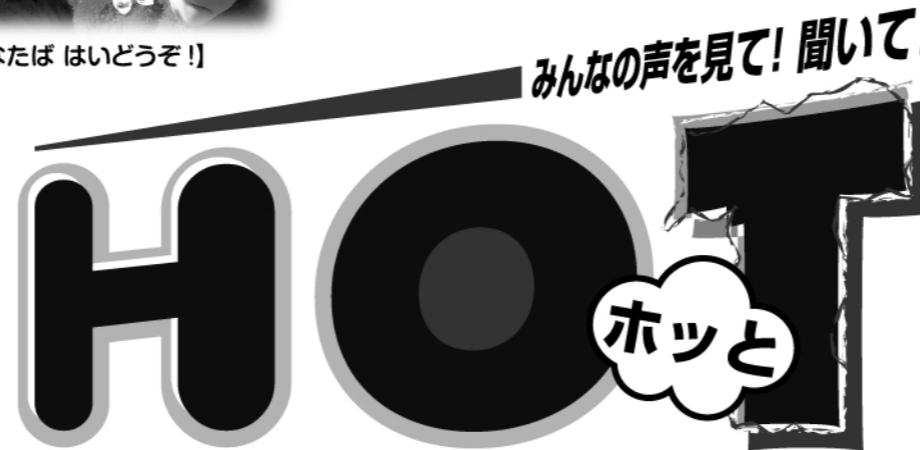
【つながれ つながれ 中学生とじゃんけん列車】

子どものつがやき

4歳児
前屈をしていたときのこと。
おでこがびったりとつく位、体の柔らかいHくん。
そのとなりで「いたたた・・・」と一生懸命前屈を
しようとしていた保育士を見て一言。
「先生 なんでしないの??」
がんばっているんだけどな・・・(苦笑)



【つめたいものどうぞ】
5歳女児



子どものつがやき

悔しくて涙の出たCちゃん
保「思い通りにいかんこともあるんよ」
それをそばで聞いていたAちゃん
「♪おもいどおりにならないひは
あしたがんばろう～♪」
いつのまにかみんなで大合唱になりました。



【おそと きもちいいね】



4歳女児

連絡ノートから

2歳児
今朝、「ナイティップル～ ナイティップルは??」とゼリーの
入っている袋をみてパイナップルのゼリーを探していました。
「パイナップル」と言えなかったり、毎日の会話が楽しいです。

子どものつがやき

畑できゅうりを育てています。食べごろになり収穫にいくと
あったはずのきゅうりが・・・ない??
保「きゅうりがなー!! サルかなあ??」
子「ゴリラがたべよった」
保「ホント!?!」
子「うん たべるの見たけ」
保(・・・ゴリラじゃなくてさるだろうな・・・)
※注 保育園のまわりにサルがあそびにくる環境だそうです



【がぶり!? 収穫した
きゅうりをまるかじり!】
5歳男児

子どものつがやき

カブト虫の幼虫が死んだ日
保「かぶちゃんがうごかなくなっちゃった」
K「みずのまんかったけんかも」
M「さみしかったんじゃない?」
S「せんせいがすーと つちのなかにいれとくけんたわ!!」
なんで死んだのか? 大盛り上がりでした。



【見事 スイカに命中!】

子どものつがやき

この時期によくみかけるダンゴ虫。園庭に出ると
あっちこっちでダンゴ虫さがしがはじまります。
「どこにいるのかなー?」「おーいダンゴ虫」と
探し回る姿が何ともいえずかわいいです。
そしてダンゴ虫をみつけると「こんにちは! ○○
だよ」と自分の自己紹介が始まりました。



【おばけとおともだち】

つがやき